

Unit19 One-stress phrasal verbs

※phrasal verb…動詞ともう一つの要素(主に前置詞や副詞=particle)からできている慣用句。句動詞という。(例)see to , break down , look down on 等

●19 - A

2語からなる句動詞のいくつかには強勢が動詞にだけあるものがある。その場合ほとんどparticleは前置詞である。

それ以外の2語からなる句動詞では、particleにメインの強勢があり動詞に2番目の強勢がある。この場合ほとんどparticleは副詞。

●19 - B

会話中では、強勢が一つの句動詞でその強勢の場所以外を強く発音することはないが、強調や対比をするために強制以外の場所を強く発音することもできる。

●19 - C

強勢が一つの句動詞の多くのparticle(at, for, from, of, to など)はweak formやstrong formを持つ。Weak formは会話中で使われるがstrong formはparticleが節の終わりにきた時に使われる。

●19 - D

強勢が一つの場合と二つの場合の句動詞があるが、一つの時と二つの時では意味が違ってくる。

Unit20 Two-stress phrasal verbs

●20 - A

強勢が二つある句動詞が会話の中で使われた場合、動詞とparticleの両方を強く発音する。動詞とparticleの間に名詞がある場合、名詞は強く発音しない。

しかし、以下のときにはparticleは強く発音しない。

- ・同じ節の中で句動詞の後に名詞(目的語)があるとき。
- ・動詞に特別な強調をおきたいとき。
- ・強く発音する名詞(目的語)が動詞とparticleの間にあるとき。

●20 - B

3語からなる句動詞も強勢が二つある。2番目の強勢が最初の語にあり、メインの強勢は二つ目の語にある。

Aの時とは違い、同じ節の中で句動詞の後に名詞(目的語)がきてもひとつ目と二つ目の語を強く発音するのは変わらない。

●20 - C

多くの複合名詞は強勢が二つある句動詞からきており、それらの名詞には前の部分に強勢がくる。